

	<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート調査結果（資料3） ・地域公共交通を語る会（意見交換会）の開催結果（資料4） ・事業者ヒアリング調査結果（資料5） ・現状分析を踏まえた課題整理と対応方向について（資料6）
公開・非公開の別	■公開 □非公開
傍聴者数	3人
その他の事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
1	開会
2	<p>報告事項</p> <p>(1) 岩倉市デマンド型乗合タクシーの実績報告について</p> <p>資料2について、小崎統括主査から説明</p> <p>磯部会長：毎回報告していただいている、質問等あるか。</p> <p style="padding-left: 2em;">乗車人数の当初目標が40人であったところ、30人台で推移していたものが20人台にまで下がってきている。予約不成立の問題などもあるので、意見や感想をお願いしたい。</p> <p>太田委員：予約不成立はゼロになるのがよいが、岩倉市内は狭いから15分あれば移動できる。時間を融通すればできるのでは。前もっての予約なので調整できるのではないか。そうすれば満足度は変化するだろう。</p> <p>事務局：その形が理想で目指して取り組んでいる。不成立になりそうな時は、時間の調整のアナウンスをしている。先に予約した人まで調整はしていないが、事業者と協議しておきたい。時間に余裕をもって予約してほしいとのアナウンスをしていきたい。どんな対応ができるか検討を進めたい。</p> <p>久留宮委員：登録者数の上限の想定があれば教えてほしい。</p> <p style="padding-left: 2em;">利用者が減っている半面、予約不成立が増えている。関連性があると思うが利用者減の要因は何か。</p> <p style="padding-left: 2em;">無料チケットの配布について、7～8月が増えたのは健康診断なのか。</p> <p style="padding-left: 2em;">木曜日の予約変動の理由は何か。</p> <p style="padding-left: 2em;">移動のパターンがつかめないか。</p> <p style="padding-left: 2em;">費用の計算について、無料チケットがあるので実際の負担ではなく300円の料金負担をしてもらっているので、数字について注意したい。</p> <p>事務局：登録者数の見込みについては、当初の予想では対象者をすべてとしていた。</p> <p style="padding-left: 2em;">65歳以上で11,890人程度いる。</p> <p style="padding-left: 2em;">利用者の減少については、登録者が増えている中での減少のため予約不成立が問題だと思う。</p> <p style="padding-left: 2em;">無料チケットの7～8月の利用増加は、健康診断時に配布した利用と理解する。</p> <p style="padding-left: 2em;">曜日ごとの変動について、木曜日は医療機関のお休みがあり利用が少ない一方で、</p>

予約不成立が多い要因はよくわからない。特定医療機関への利用に集中しているのかもしれない。

コンビニクルで移動パターンをチェックしたが、かなりランダムな結果だった。乗車時間と下車時間の差から利用をみると、3 kmの移動が8割程度となっている。一人当たりの負担は、決算額を利用人数で割ったもの。決算額には300円を除いた金額で、行政負担のみの数字。

小林委員：乗降場所をみると、行きと帰りの数字が異なる。その要因は何か。

事務局：行きはデマンド、帰りはタクシーを使うという声を聞いたことがある。

磯部会長：今回の最後に、現状分析についての整理された資料がある。次の議論に移り、引き続き事業について確認を進めたい。

(2) 市民アンケート調査結果について

資料3について、小出統括主査から説明

磯部会長：アンケートについて質問がなければ、意見交換会の資料説明をお願いしたい。

(3) 地域公共交通を語る会（意見交換会）の開催結果について

資料4について、小出統括主査から説明

磯部会長：アンケートについては市民に幅広く聞いた。意見交換会は集まっただいて直接意見を聞き、対応策も考えてもらうことをしてもらった。あわせて議論をしたい。

関戸委員：停留所について、コンビニ、商業施設、岩倉駅にいけない理由は何か。

事務局：商業施設については、できないわけではないが、既存の公共交通との関係で設置していない。同様の理由で岩倉駅は、近くの生涯学習センター等の利用を促している。市外利用も運行許可の関係もあり制限している。法的にはできないわけではないが、ここで議論し、設置が必要であれば検討する。

磯部会長：基本は、既存の公共交通を使ってもらい、使えない場合や隙間を埋めるためにデマンド型乗合タクシーをスタートさせた。

榊原委員：デマンド型タクシーをこうしたいという市の意見があるのか。

良い方向にもっていきたいとは思いますが、アンケートをみるとバスの利用は1割という状況。すきまを埋めるための交通手段なのに知らない、利用されていないという状況である。まずは知ってもらう必要があるだろう。

将来を考えると、デマンド型タクシーは税投入を考えるべきという意見だと思うのだが、市としてはどうしたいのかわからない。

当初の考えはわかるが、商業施設・岩倉駅にいけないというのは利用者の意向にあっていない。福祉施策もやっていると思われる。

デマンド型タクシーの利用実態について行きと帰りの利用者数が異なる点も含めて考えると、公共交通全体で方向性を考えないといけないのではないか。

一人当たりの額2,300円を考えると、いっそのこと、定時定路線に変える。もしくは江南市のいこまいCARに変えるべきとなる。

磯部会長：今の指摘は、最後の議事のところで協議すべき意見を頂戴した。

松浦委員：アンケートで対象者に現状の公共交通に対する市の負担についてどう思うかという設問があるが、2,300円という額が適切な金額かどうかという点は、市民に聞いてもわからない。判断できないと思う。

ヨーロッパでは、公共交通イコール、バスだと思う。日本は、バスの運行について民間事業者は疲弊してやっていけない。事業者の立場で考えると、午前中は車両を増やすべきだが、事業費の拡大になりできない。停留所を増やすことも、既存事業者との関係からもできない。2,300円が高いか安いかの判断は、市長がすべきことだと思う。

磯部会長：2,300円という数字は慎重に扱うべきものだと思う。

鈴鹿市で教わったことだが、図書館の維持費と比較するといったこともやっていた。数字の判断は、比べるもので意見は異なると思うので、注意したい。

先に話を進めて、最後に議論したいので、4、5をまとめて説明をお願いします。

(4) 事業者ヒアリング調査結果について

(5) 課題整理と対応方向について

資料5・6について、小出統括主査から説明

磯部会長：今後どうするか。デマンド型タクシーは簡単に継続はできない。事業費用は当初1日40人乗ると目標していたので、割高になっている。どのような方向にしていくべきか。岩倉市は、公共交通が不便なところなのか、原点にもどって確認しておきたい。

榊原委員：デマンド型タクシーに絞った議論になっているのはなぜか。岩倉市の公共交通そのものをどうしたいのか議論すべきではないのか。カバー圏域については、バス停留所から1,000mで設定しているのもバス利用のために1,000m歩くとは思えない。分析された資料について利用者目線になっているのか、わからない。

松浦委員：利用者目線がないという点について、デマンド型タクシーをやめて次のステップを考えると、定時定路線バスはたぶん乗らない。小牧市のように市内の総合病院へのルートを作るという形を設定できない岩倉市では、ルート設定は難しい。岩倉市では難しいと思う。経費も拡大する。

乗用タクシーについては乗務員不足問題がある。デマンド型タクシーは2台・運転手の確保をしているので、確実に運行できる。岩倉市の最適な公共交通をどうするか、今のやり方が問題だとは思わない。

利用者目線で考えれば、降りたいところで降りるようにすればよい。岩倉市の公共交通に対する投資について、決して多いわけではない。事業者としては、このまま進められると思う。

磯部会長：岩倉市は、既存の公共交通はある場所と理解する。現状、住民は満足できているのか。

吉岡委員：名鉄バスでも乗務員不足は問題。アンケート調査ではバスの認知は7割あるが、利用に結び付いていないので課題と認識している。鉄道、バスなどの公共交通を連携

して、利用されるように進めたい。

小牧市の間内ルートは、市からの要請で動かした。九日市場は既存の路線の経緯を精査して残してきたもの。地域と調整しながら進めたい。

小林委員：なぜ岩倉市がデマンド型タクシーを採用したのかを考え直すべき。デマンド型タクシーは、鉄道やバスを補完するもの。便利にしすぎて、デマンド型タクシーが主役になると、バスの維持に影響がある。認知度が低いので、利用促進につながるPRを行う必要はあると思う。

磯部会長：事業を開始して5年を経過する。岩倉市には交通空白地があるので、その部分のフォローは必要だろう。

デマンド型タクシーについて高齢者は利用できるのか。使うためには慣れが必要。70、80歳代になって自分で予約ができるのか。サポートする人たちをどのように育てるかということも問題とならないか。

太田委員：岩倉市はコンパクトな地域。デマンド型タクシーはよいシステムだと思う。何をすべきか、事務局はわかっていると思うので、その考えを進めてもらえればと思う。デマンド型タクシーの良いところは、切り捨てることがない。コミュニティバスは、切り捨てられる場所が必ず存在する。利用できない人が発生することになる。

河村委員：自分は交通空白地に住んでいる。周りの人がデマンド型乗合タクシーを使っているか、交通手段の確保に困っているのか。正直、自分の耳には困っているという話が聞こえてこない。隙間をカバーするということが目的であれば、空白地に住んでいる方の利用を確認してほしい。デマンド型乗合タクシーをどの地域に住んでいる人が使っているのか。

将来75歳になった時のことは、正直、想像がつかない。もっと将来は緊迫する状況を示すべきではないか。アンケートでは将来不安が示されていないので、税負担に対する理解が違う形になったのではないかと思う。

毎年毎年、広報・PRすべきだと思う。開始から5年経っているのにあまりにも住民が知らないので、行政の対応不足だと思う。

磯部会長：事業評価は、利用者数ばかりでなく、利用の多いエリアに注目し、政策にあっているかどうかを確認すべきかもしれない。

市長：今回は、論点整理をしたうえで、委員の自由な意見を議論してもらうべきと考えていた。

資料6のバス停留所から1,000mの圏域設定については、300mでも500mでもほとんど人口カバー率の数字はあまりかわらない。どの図を示すかで混乱を招いてしまった点は反省したい。岩倉市は鉄道の利便性の高いところである。

岩倉駅や商業施設の利用ができないのは、既存の交通事業者のお客を奪うこと、民業圧迫になってはいけない理由がある。バス事業者、タクシー事業者の領域があり、空白部分を違う形で補完する。デマンド型タクシーがスタートした時には、そうした議論を確認していた。

地方自治体が公共交通を分担し始めたのは最近の話である。岩倉市は、鉄道の便がよいので、日常の生活の中で、公共交通、バスを利用するのは他地域と比べ少ない

ところだと思う。

将来は、車いすの方も増えてくるかもしれない。高齢化が進む中で、どんな形がよいのか。

本日の意見交換をふまえて、次回は、具体的な市の考えを示す。経費の問題については、岩倉市の税収は他市に比べ少ない。そのため公共交通に対する投資も少なくしてきたが、将来の必要性等を考慮して再度考えたい。

皆様の意見を聞きながら進めていきたいと思う。

磯部会長：この会議は、地域全体、公共交通全体を考える場所。鉄道、バス、タクシーについて民間事業者が事業を行っている。交通空白地の足りないところを行政がデマンド型タクシー事業にて対応している。

デマンド型タクシーは必ず車両を確保している良いところがあるものの、うまく利用されていないことも事実としてある。他のシステムでよいものがあれば、常に検討して、相談をしていただきながら、利用者にとって利便性の高いサービスを維持していきたいと思う。

3 その他

事務局：次回会議日程は1月18日午後2時から予定する。次回は、本日の意見交換を踏まえて、具体的な対応策を示して協議したい。

上記のとおり、岩倉市地域公共交通会議の経過及びその結果を明確にするために、この会議録を作成し、ここに署名します。

平成30年12月20日

岩倉市地域公共交通会議

会長

磯部友彦

